

保険申請者は456名（59％）であり、要支援2及び要介護2並びに要介護3の比率が高くなっている。過去1年間の療養状況については、特別養護老人ホーム及び有料老人ホームに入所中の割合がほぼ同率となっており、在宅療養中で介護サービスを利用している方のサービス種類については、通所介護（デイサービス）、訪問介護、福祉用具貸与・販売の利用が高率となっている。これらのアンケート結果によりスモン患者の2割強が病院及び施設へ入院・入所している現状を踏まえ、今後は更なる実態把握のため当該病院・施設側へのアンケート調査をおこなっていく必要がある。

藤木直人班員らは、スモン総合対策が担う介護への役割を報告した。スモンの重度障害者の介護は、昭和53年に“スモン総合対策”を通して施行され、家庭奉仕員を迅速に派遣すること、福祉機器は2種目以上支給することが特記されて、所得が免税対象の患者には応能負担という全額公費負担が約束された。しかし平成12年の介護保険法施行後、スモン患者も65歳を機に老化を対象とした介護保険へ優先対象者として移行され、中枢神経や視神経を重度に冒された患者たちに欠かせない介護支援の一部が切捨てられ、経済的に生活保障を奪うという結果に繋がった。しかし、スモンの介護については国の責任のもとで“スモン総合対策”を通して施行し、低所得者の介護費用についても応能負担として全額公費負担が約束されている。介護保険事業による支援不足は、障害福祉事業を通して継続施行するという“スモン総合対策が担う介護への役割”を検討した。

藤木直人班員らは、スモン患者に行う鍼灸マッサージによる継続治療の必要性を報告した。スモン患者に公費負担で認められている鍼灸マッサージ治療は月7回までであるが、この範囲の治療では改善した状態を維持できない患者が少なからず存在し、治療頻度の増加が症状改善をもたらすかどうかを検証した。結果、回数を増やし治療を続けると、頸部のコリや背腰部の硬結、下肢の異常知覚が以前より軽減された。脈拍数も治療前より治療後のほうが低くなり身体の重だるさが軽減された。便秘症状も治療継続により症状の緩解と再燃を繰り返しながらも改善された。治療上限を超える部分は自己負担になっており対策が必要である。ま

た継続的な治療を出来るだけ長く続けていくために訪問治療を行う環境を整える必要がある。

田中千枝子班員らは、今年度の福祉・介護サービスの受給状況を報告した。例年と同様、高齢化の進行とともにADLや介護している程度等、日常生活場面の緩やかな低下はあるものの、生活の満足度に著しい変化は見られていない。一方家族形態は単身および2人世帯が7割に迫るようになり、ここ10年間で主な介護者のうちホームヘルパーなどのフォーマルな支援者の割合が12%から31%に増加した。福祉・介護サービス受給との関係では、身体障害者手帳の取得率が9割、介護保険申請者比率が5割となっているが、健康管理手当以外の福祉サービスは利用が3割前後で、以前に利用したことのあるものも含めても5割に満たない。また介護保険では今年度は在宅率が7割を切った。在宅サービスの利用経験は通常と変わりがない。訪問介護と福祉用具貸与を除けば、そのほかは以前に利用したことがあるものを含んでも2割はない。今後多様な対人系サービスの利用促進策が必要と考えられる。

田中千枝子班員らは、スモン患者の闘病と社会生活との関係―ライフストーリーによるTEM分析を報告した。

田中千枝子班員らは、スモン患者の抱える不安と療養生活～自由記述分析と聞き取り調査よりを報告した。昨年度実施した全国アンケート調査の自由記述では年齢とともに多くのつらさを抱え、病気とつきあってきた経緯や日常生活の様子等が記されており、制度やサービスに対する苦情や不満の背景には、サービス等の不備に加え経済的困窮や社会的孤立も窺えた。今回、我々は6名にインタビュー調査を行い、スモン患者の闘病と社会サービスとの関係、スモンが与えた影響について調査した。自由記述で得られた【闘病の経緯と体調の悪さ】【社会サービスへの不満、要望】【精神的なつらさと将来への不安】【経済面の不安】の各カテゴリーで整理したところ、〈社会から受けた差別や軽蔑〉が〈避けられなかった転職や引越、退学〉という影響を及ぼし、結果的に〈スモンを隠した生活〉とならざるを得ない状況があり、また〈介護保険の認定が低く出る〉ことが社会的無理解を感じさせ、〈足りないサービス〉という必要なサービスを受けることができ

ないという実態、さらに精神的なつらさの背景には、〈あきらめの気持ち〉や〈人に言えない悩み〉〈屈辱と孤独〉が存在していること等が理解できた。

千田圭二班員と田中千枝子班員らは、東北地方におけるスモン患者の闘病生活と社会サービスに関する調査研究を報告した。闘病生活・人生を語ってもらい、社会福祉サービスの利用でうまくいっていない点に必要に応じて介入し、利用状況の改善を図るとともに、スモン検診回避者の状況把握と回避の要因を分析した。調査内容は、スモン患者調査の手引きを利用し、対面方式で行った。調査報告については第Ⅰ期～第Ⅴ期と区切り記載した。面接を希望した、岩手県4名、宮城県2名、秋田県0名、山形県4名の計10名へ訪問し調査を行った。そのうち、スモン検診・訪問検診を受診していないのは2名で、いずれも以前はスモン検診を受診していた。また、訪問検診についての情報提供や、社会福祉サービスを利用していない方が3名おりスモン検診・訪問検診を継続することで今後介入が必要になることが予想される。

坂井研一班員と田中千枝子班員らは、岡山県におけるスモン患者の闘病生活と社会サービスとの関係性の調査研究を報告した。5名の在宅スモン患者にインタビューを行い、ライフストーリーを聞き取った。患者は、スモンを発症し、ショックや不安、恐怖を抱え、今後の見通しが立たない不安感の中で、治療を受けながら、障害を抱えて、頑張っている生きてこられた要因の1つとしては、家族の存在であり、夫、子どもの存在が大きい。5名とも結婚されており、夫の支えがあった事、また夫を支えないといけない役割があった事が生きる糧になったと考えられる。また出産、育児の中で、子どもの存在も生きていく大きな力になっていると考えられる。また社会サービスの利用において、健康管理手当を受ける上で医師による投薬証明が必須であるが、それが認定されず、医師を含めそれに関係する人々の対応や何気ない言葉によって、心理的に傷ついているケースがあった。スモンについては、もう治らないと受け入れつつも、諦めきれない、何か良い情報は無いのかといった複雑な思いがあった。その思いがスモン検診に期待する部分があった為、それがかなえられず不満につながる部分もあるが、それ以外の検

診の意味も理解し、感謝の思いもあった。インタビューを行う中で、あまり思い出したくない記憶でもあり、当時の様子を聞き取るのは苦労を要した部分もあるが、まだ未訪問の患者もおり、患者・家族も含め振り返ることで改めて気づくこともある為、引き続き調査を行う必要があると考える。

8. 広報

「スモンに関する調査研究班」としては、広報とスモンの風化対策として市民公開講座『スモンの集い』を開催した。

市民公開講座『スモンの集い』は平成27年10月31日に福岡市で開催され、118名が参加した。プログラムは以下の如くである。

1) スモンの経緯と現状

国立病院機構鈴鹿病院長 小長谷正明

2) スモン患者の声

福岡県スモンの会 古賀 道子

3) 特別講演・認知症に関する最近のトピックス

—認知症の人を地域で受けとめるために—

国立長寿医療研究センター 副院長

鷺見 幸彦

4) 特別講演・人生の最期まで豊かに生きる

—平穏死という選択—

芦花ホーム医師

石飛 幸三

なお、ワークショップは平成27年7月に名古屋市で行う予定であったが、同地方に台風上陸のため中止となった。

また、スモン患者の療養に資するために冊子『2014年スモンの集い講演集』を各スモン患者（健康管理手当受給者1523人）、患者団体、医療・福祉・行政機関に配布した。

スモン流行時に診療と原因追及に当たった医師の証言集「スモン研究の回顧講演集」を発行した。

D. 考察

「スモンに関する調査研究班」はスモン患者の恒久対策の一環として設けられ、その主要業務の一つは、検診を行い、医療・福祉の現状を調査するとともに、

状況に応じて適切なアドバイスを行ってきた。今年度は660人を検診し、平成27年初頭の薬害被害者救済基金受給者数は1529人の43.2%であり、検診率は向上している。しかし、一方で、受診患者の年齢は高齢化し、平均年齢は79.9歳であり、75歳以上の後期高齢者が74.4%、85歳以上の超高齢者が31.4%を占めるようになった。それに伴って、患者の医学・医療状況や福祉介護の様相も変化してきている。

もともと存在しているスモンの基本的症状に加えて、高齢化や、既存の障害によってもたらされる二次的な障害が加わることで、重症度の増加やADLの低下が認められる。すなわち、受診者の視覚障害や異常知覚の重症度の比率は平成2年度と今年度はほとんど変化がないにもかかわらず、歩行障害は経年的に重症度の比率が増加している。一方、歩行障害は、不能と車椅子が、平成2年度は約10%であったものが今年度は20%と2倍になっており、介助・つかまり歩きの高度歩行障害者を合わせると、今年度は38%に及んでいる（平成1年度21%）。その比率はADLの尺度であるBarthel Indexの得点比率ほぼ並行しており、55点以下は平成3年度約10%、今年度21%であり、歩行不能者とほぼ同じであり、75点以下も今年度は39%となっている（平成3年度19%）。即ち、スモン患者の日常生活にとって歩行障害が最も大きなファクターになっていると推察される。スモンでの痙縮や麻痺、深部感覚障害などによる下肢の神経症状が関節疾患をもたらし、易転倒性による骨折や脊椎疾患をきたしたと考えられる。事実、スモン患者では、同年齢の健常人と比較して筋力と筋量の低下や骨粗鬆症などが指摘されてきている。データ・ベースを用いたフレイル（脆弱性）診断の試みでも、歩行可能で介護保険を受けていないスモン患者でも、優位に脆弱性のある人が多かった。筋力増加や運動機能維持のための試みもなされてきているが、一般的な意味での健康増進も必要である。

高齢化による併発症は運動器疾患だけではなく、種々の疾患が療養状態を悪化させている。悪性腫瘍の合併者は近畿地区の検討では21%に及び、そのうちの約2割は複数のガンであった。また、絶対数は少ないながらも、パーキンソン病を発症するスモン患者が70歳

代の女性では一般人の3倍の頻度である。これらの疾患の併発が、加齢に伴い好発年齢に達したSMON患者においては、過去のキノホルム暴露が、遺伝的脆弱性と相まってパーキンソン病発症のリスク因子として関与しているかは、今後も慎重に見守る必要がある。

認知症に関しては、キノホルムの持つキレート作用が β -アミロイドの脳内蓄積を抑制することから、アルツハイマー病治療薬としての可能性が言われてきており、スモン患者集団での認知症の動向に関心が持たれている。今年度報告された89歳男性例では、NFTは出現していたが、老人斑は全く見られなかった。現時点までの当班での検討では、スモンでの認知症発症は、一般人より若干低い傾向にあるが、近年は経年的に著しく増えており、今年度は14.2%に上っており、5年前より6.8ポイント、昨年度より1.5ポイントも増加している。2012年での65歳以上のスモン患者の認知症の有病率は10.5%で、一般住民の15%より若干低い。対象が検診患者のみでスモン全体を反映せず過小評価の可能性もある。また、キノホルム量はスモンの重症度と関連するため、現時点のアルツハイマー病合併は過去に内服したキノホルム量と関連はないと思われる。仮にキノホルムに抗アルツハイマー病作用があるのなら、同じ機序で効果があり、神経毒性のない薬物を開発すべきであろう。

スモンで見られる精神症状は、上記のように認知症が増加している反面、抑鬱の比率が下がり、またその抑うつでも軽度の人が増えている。治療によるものなのか、超高齢となって病状や生活状況に順応したためか、知的機能の低下に伴って抑うつ症状が出なくなったためか、今後の推移を注目したい。

福祉に関しては、全般的に社会資源の利用度の向上が報告されており、福祉支援内容の周知が進んできたものと思われ、本班がここ数年行っている、個々のスモン患者へ小冊子を直接配布することによる効果が現れている可能性もある。受診者の介護保険の利用率は56.4%となり、制度が発足した2004年は42%であり、2012年になってやっと50%となったが、昨年度52.4%と、急速に増加している。また、かなりの介護を要する介護度3以上も、徐々にではあるが増加している。介護保険利用者では今年度は在宅率が7割を切った。

在宅サービスの利用経験は通常と変わりがなく、今後多様な対人系サービスの利用促進策が必要と考えられる。

スモン患者への医療費は、国が責任を負う薬害という事で、全額公費負担となっているが、患者が受診した医療機関の対応からのトラブルは皆無とは言えない。厚生労働省当局による医療機関への直接的な説明はもとより、班員からの医療機関への説明などで解決することもあるが、公費負担の医療機関へのより一層の周知が望まれる。

患者の実態把握には、検診効率の上昇につなげるために、検診会場での啓発活動や交流会などとともに、電話や手紙などを通じての検診案内や療養状況の聴取が行われている。昨年度から今年度にかけては、地域の医療行政機関である保健所のスモンなどの難病患者への取り組みや、患者が福祉・介護サービスを受けている施設についてのアンケート調査を行った。また、希望する患者には MSW などによる対面聞き取りも行い、より細かく状況の把握を勤めるようにし、今年度は東北地方と岡山県などで行った。今後、検診結果と合わせて、患者情報やニーズについて保健所や医療・福祉施設との情報共有化の方法を探っていく必要がある。

ここ数年の基礎的研究では、キノホルムの神経毒性が活性酸素を介していることはほぼ明らかになったが、その詳細についてはまだ判明はしていない。今後の研究が待たれる。また、キノホルムを服用した人が、みなスモンを発症したとは考えられず、同剤に対する感受性の差があった可能性もある。かなりのスモン患者が存命中に、この点も明らかにすべき問題である。

II. 分担研究報告

平成 27 年度検診からみたスモン患者の現況

小長谷正明（国立病院機構鈴鹿病院）
久留 聡（国立病院機構鈴鹿病院）
藤木 直人（国立病院機構北海道医療センター神経内科）
千田 圭二（国立病院機構岩手病院）
亀井 聡（日本大学神経内科）
祖父江 元（名古屋大学神経内科）
小西 哲郎（がくさい病院）
坂井 研一（国立病院機構南岡山医療センター神経内科）
藤井 直樹（国立病院機構大牟田病院）
橋本 修二（藤田保健衛生大学衛生学講座）
田中千枝子（日本福祉大学社会福祉学部）
寶珠山 稔（名古屋大学脳とこころの研究センター）

研究要旨

本年度検診総数は 660 例で、うち 660 例がデータ解析に同意し、新規検診受診者は 11 例である。

男女比は 186 : 474、平均年齢は 79.9±8.6 歳であり、年齢構成は 49 歳以下 0.0%、50-64 歳 4.1%、65-74 歳 21.5%、75-84 歳 43.0%、85 歳以上 31.4%であった。身体症状は指数弁以下の高度の視力障害 8.8%、杖歩行以下の歩行障害 61.2%、中等度以上の異常感覚 73.6%であった。何らかの身体的随伴症状（いわゆる合併症）は、回答者の 99.2%にあり、白内障 64.8%、高血圧 56.4%、四肢関節疾患 37.2%、脊椎疾患 41.7%などの内訳である。59.5%に精神徴候を認め、認知症は 14.3%であった。

診察時の障害度は極めて重度 5.6%、重度 22.6%、中等度 43.7%であり、障害要因はスモン+併発症が 67.9%と 2/3 を占めていた。介護保険は 372 人 56.4%が申請しており、要介護 4 と 5 は併わせて 58 名で、受診者全体の 8.8%であった。療養上の問題は、医学上 83.0%、家族や介護 49.0%、福祉サービス 23.4%、住居経済 18.4%であった。

A. 研究目的

本年度検診結果からみた全国のスモン患者の現況を把握し、高齢化しつつあるスモン患者療養支援の基礎資料とする。

B. 研究方法

本班班員を中心として、保健所などの行政機関、患者団体が協力して「スモン現状調査個人票」に基づい

て問診と診察を行い、橋本班員により集計／解析が行われた。

C. 研究結果

本年度検診総数は 660 例（男：女=186：474）で、全例がデータ解析に同意したが、昨年度の 642 例より 18 例増加した。うち新規検診受診者は 11 例である。地区別には北海道 58、東北 61、関東・甲越 103、中

部 125、近畿 113、中国・四国 136、九州 64 例であった。平均年齢は 79.9 ± 8.6 歳（男 78.6 ± 8.5 歳：女 80.4 ± 8.7 歳）であり、年齢構成は 49 歳以下 0.0%、50-64 歳 4.1%（13 人：14 人）、65-74 歳 21.5%（36 人：106 人）、75-84 歳 43.0%（88 人：196 人）、85 歳以上 31.4%（49 人：158 人）であった（図 2）。検診の場所は、自宅が 111 人（16.9%）と施設・病院が 74 人（11.3%）で、訪問検診が合わせて 28.2%であり、来所検診は 470 人 71.8%であった。

現在の視覚障害（回答数 648）は全盲、指数弁以下、新聞の大見出し程度が夫々、1.4%、7.4%、33.3%であり、新聞の細かい字と正常は 42.9%と 15.0%であった（図 3）。歩行障害（回答数 665）は不能、つかまり歩き以下、杖歩行が夫々、11.3%、25.9%、24.0%であり、かなり不安定独歩とやや不安定独歩およびふつうは夫々 8.9%、22.0%、8.1%であった（図 4）。下肢 4 筋力低下（回答数 647）と痙縮（回答数 646）の中等度以上の障害は夫々、46.0%、27.7%であり、触覚

（回答数 623）と痛覚（回答数 623）、振動覚障害（回答数 623）では夫々、50.0%、45.3%、73.6%であった。過敏は触覚 11.1%、痛覚 24.6%であった。異常感覚（回答数 633）では中等度以上が 73.6%にみられており、初期からの経過は（回答数 607）では悪化、不変、軽減が夫々 16.8%、23.2%、60.0%である。

自律神経症状では、皮膚温低下（回答数 642）が 68.5%、臥位血圧（回答数 613）が収縮期 $160 < \text{or}$ 拡張期 $95 <$ の人が 15.2%、尿失禁（回答数 656）が 63.3%、大便失禁（回答数 655）が 30.7%みられている。胃腸障害（回答数 646）は 77.9%にあり、18.3%はひどく悩んでおり、3.7%はしばしば腹痛を訴えている。

身体的随伴症状（併発症：回答数 653）は 99.2%にみられており、高率なものは白内障 64.8%（影響のあるもの 14.2%）、高血圧 56.4%（11.3%）、心疾患 23.3%（5.8%）、脊椎疾患 41.7%（12.3%）、四肢関節疾患 37.2%（11.8%）であった。また、骨折は 21.3%（5.2%）脳血管障害は 13.5%（5.7%）糖尿病 13.5%

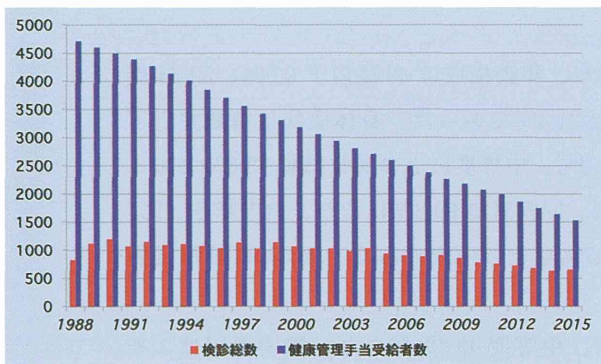


図 1 検診総数と健康手当受給者数の変遷

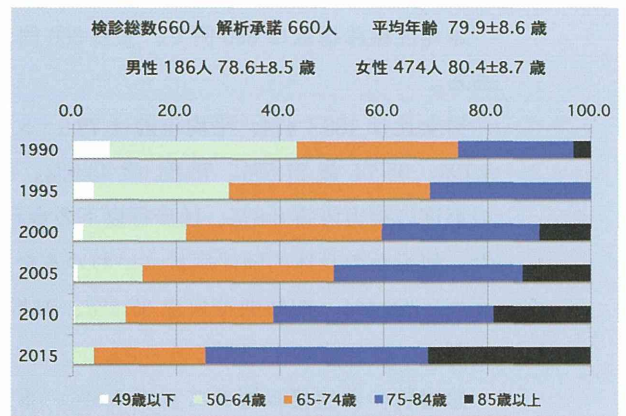


図 3 年齢構成の変遷

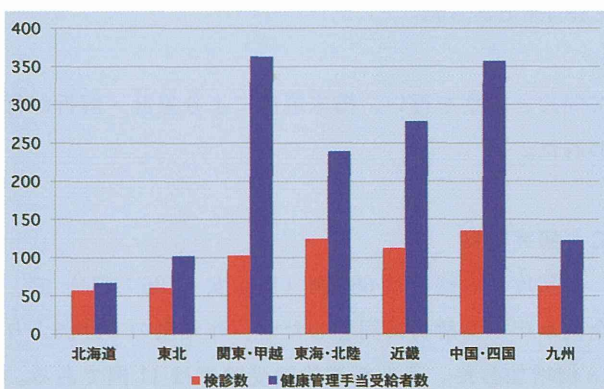


図 2 域別検診受診者数と健康手当受給者数

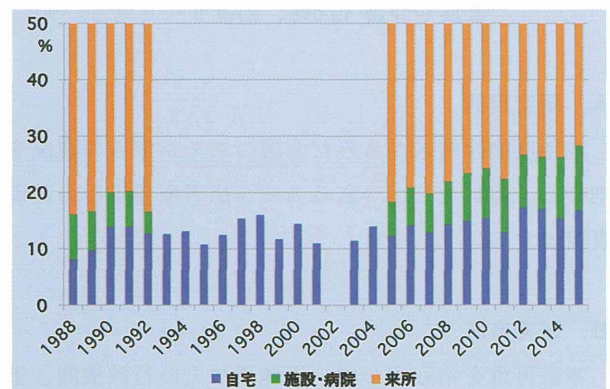


図 4 検診場所の推移

(4.4%) パーキンソン症状 2.8% (0.6%)、悪性腫瘍 9.6% (2.3%) であった。また、精神徴候 (回答数 649) は 59.5% に認められており、不安・焦燥 29.1% (影響のあるもの 7.1%)、心氣的 12.9% (2.9%)、抑うつ 17.6% (4.5%)、認知症 14.3% (6.9%) である。

診察時の障害度 (回答数 646) は極めて重度 5.6%、重度 22.6%、中等度 43.7% であり、障害要因 (回答数

647) はスモン 20.2%、スモン+併発症 67.9%、併発症 3.4%、スモン+加齢 8.5% である。Barthel Index (回答数 660) は 20 点以下 9.1%、25-40 点 5.8%、45-55 点 6.4%、60-75 点 16.2%、80-90 点 25.8%、95 点 18.2%、100 点 18.6% であった。過去 5 年間の療養状況 (回答数 657) は在宅 68.9%、ときどき入院/所 19.3%、長期入院/所 11.7% であった。

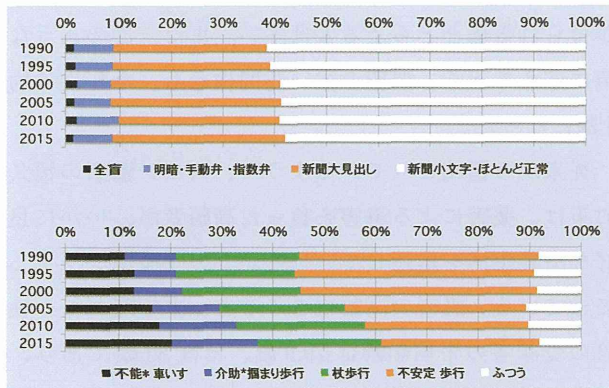


図5 視力障害(上)と歩行障害(下)の推移

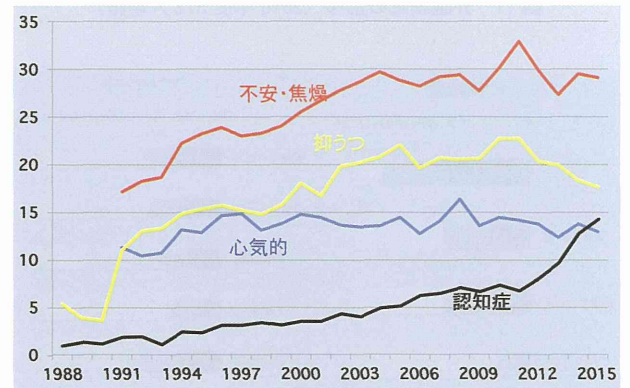


図8 精神症状の推移

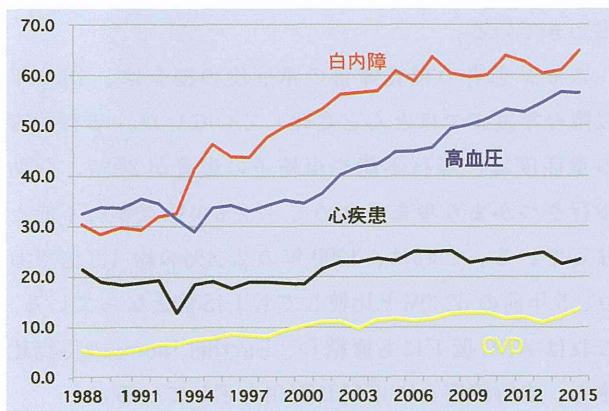


図6 身体症状の推移 (1)

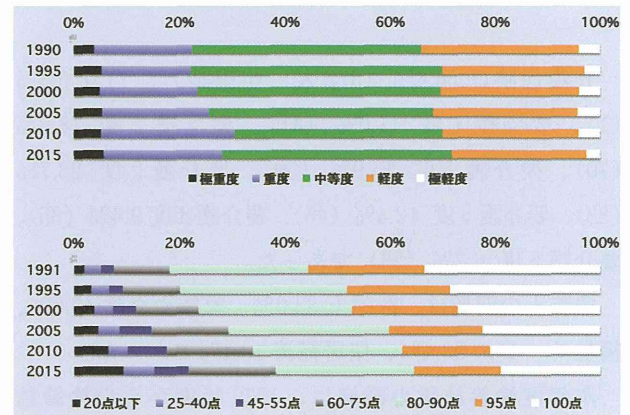


図9 障害度(上)とBarthel Index(下)の推移

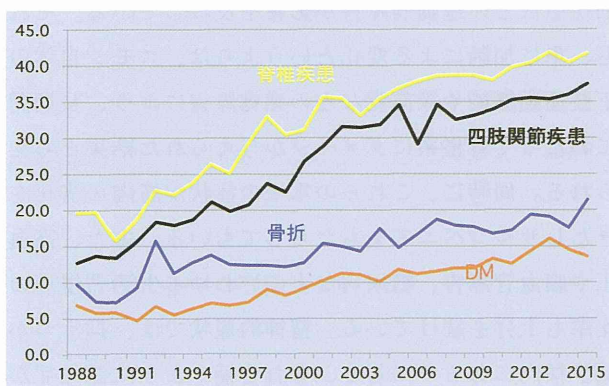


図7 身体症状の推移 (2)

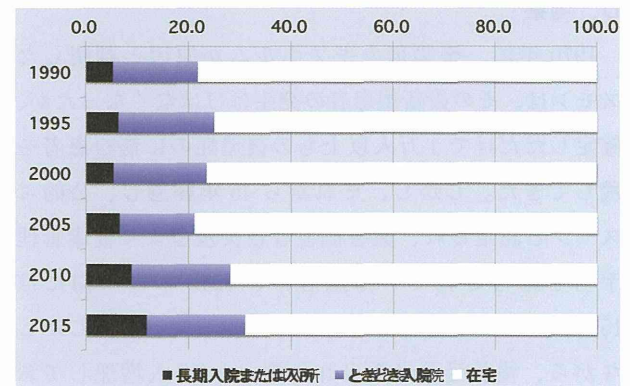


図10 最近5年間の療養状況の推移

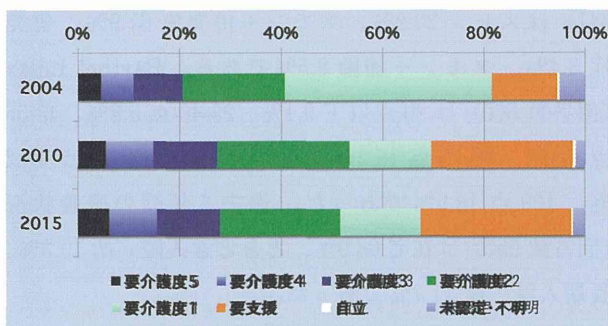


図 11 介護認定の推移 (2015 年度 372 人申請)

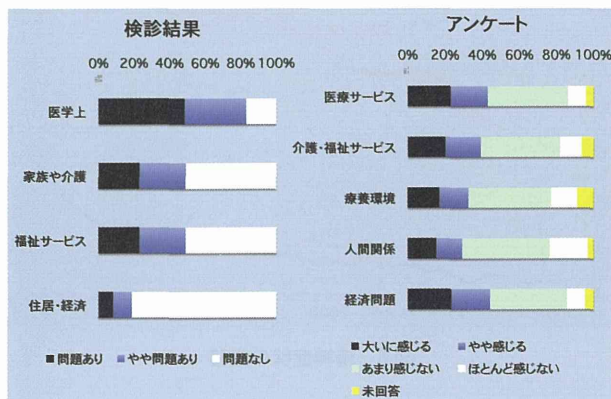


図 12 検診とアンケートによる療養上の問題点

介護保険は 56.4% (372 人) が申請し、自立 0.3% (1)、要支援 1 度 11.0% (41)、要支援 2 度 18.8% (70)、要介護 1 度 15.9% (59)、要介護 2 度 23.7% (88)、要介護 3 度 12.4% (46)、要介護 4 度 9.4% (35)、要介護 5 度 6.2% (23) であった。

療養上の問題は、医学上 83.0%、家族や介護 49.0%、福祉サービス 23.4%、住居経済 18.4% であった。

本年度検診結果の詳細は、1979 年度からの検診結果一覧表と併せて、本稿の末尾に掲載した。

D. 考察

1970 年に、整腸剤のキノホルムが原因と判明したスモンは、その後新規患者の発生はほぼなくなったが、確定しただけで 1 万人以上もの後遺症のに悩む患者を残してきた。しかし、それから 45 年経過し、公的にスモンと認定され、薬害被害者救済基金より健康管理手当を給付されている患者は、2015 年の年初には 1523 人であり、昨年より 110 人減少している。しかしながら、検診受診者数は昨年度より 18 人増加しており、受給者に対する受診者の比率も昨年度 39.2% だっ

たのに対し 43.2% となっている。この比率は、現在の形でスモン患者の全国検診を行った初年度の 1988 年は 17.7%、2000 年 33.7%、2010 年 38.0% であり、年々増加している。スモン患者の高齢化により、のちに触れるように様々な医療・福祉上の問題が多くなったことにより、診察やアドバイスを求めてきていると思われる。昨年度の患者アンケート結果で報告したように、患者にとって検診は診察や相談を通じて安心感が得られる場ととらえる人は多い。また、このような声に応えるべく、要望の強い訪問検診も、今年度は約 3 割になった。

従来から指摘されているように、スモン患者の恒久対策は、薬害による障害を負った高齢者が、いかに良好な療養生活を維持していけるかという面にシフトしてきている。患者の高齢化をみると、本年度スモン検診の受診者の平均年齢は 79.9 歳、ほぼ 80 歳であり、75 歳以上の後期高齢者が 74.4%、85 歳以上の超高齢者が 31.4% を占めるまでになっている。したがって、医療面でも、福祉面でも、高齢者一般の問題が前面に出てきている。

スモン患者の視覚障害の重症度の割合は、1990 年以降今年度までほとんど変化していないが、歩行障害の重症度は、歩行不能や車椅子の患者が 20%、介助歩行やつかまり歩きを含めて 37.2% が独立歩行不能となっている。これは、1990 年の 23.4% の約 1.6 倍であり、5 年前の 32.3% と比較しても 1.15 倍となっている。これは ADL 低下にも直結し、Barthel Index の得点比率も、歩行障害とほぼ同じ変化を示している。

障害の原因としては、スモン本来の症状によるというよりは、身体的合併症、とりわけ脊椎疾患や四肢関節疾患などの運動器障害が影響を及ぼしている。それも、単に加齢による変化というよりは、スモン自体の下肢運動機能や深部覚などの感覚障害により、長期間にわたって骨格系にダメージが与えられた結果と考えられる。同時に、これらの本来の症状が筋肉の劣化をきたしサルコペニアをもたらしてもいる。また、高血圧や脳血管障害、糖尿病などのいわゆる生活習慣病の比率も上昇を続けている。精神的症状では、抑うつが減少傾向にあるのに対し、それを補うように認知症が増え、今年度は 14.2% になった。これは 2010 年の 7.3

%のほぼ2倍になる。

介護・福祉の検討では、介護保険の申請率は56.4%と、制度発足以来最高の申請率となった。また、重度の要介護度4と5に判定された割合は合わせて15.6%である。今年度の受診者での結果を年度初頭の薬害救済基金受給者数1523人から推定すると、要支援は1と2を併わせて256人、要介護度1と2は併せて340人、要介護3と4は併せて199人、要介護5は62人となり、非受診者にやや重症者が多い可能性を考慮すると、この数字より若干多いと思われる。

今年度全てのスモン患者1523人を対象として、福祉関係のアンケートを行い、772人、50.7%の回答を得た。そのアンケートでの回答では、検診患者とほぼ同じ54.3%が申請した。その結果から、推定すると、237人が要支援、要介護度1と2合わせて286人、要介護3と4併せて217人、要介護度5が69人となり、アンケートの方が要支援1と要介護度1、2の比較的軽度の人が多く、要介護度3以上の重度の人が若干多いと推定された。非受診者により重い患者が多い可能性はある。

検診での集計結果と、そのアンケート結果での、療養上の問題点を比較すると、検診では医学上の問題は83%であり、アンケートでは医療サービスが43%であり、検診した医師側の問題意識が高かった。それに対し、介護福祉サービスは、検診では問題ありが23.4%、アンケートでは39%であり、住居経済問題については、検診18%、アンケートでは経済問題がるとしたのは44%と、検診者より患者側の問題意識が高かった。身体的な不安はある程度あるとしても、現在の福祉や介護に対する主観的は不満や、今後療養する上での経済不安があると思われた。

今年度は初めて49歳以下の検診受診者がなくなり、いわゆる若年スモン患者と言われた人たちにも高齢化の波が押し寄せてきている。幼少期に発症以来、両親など親族が保護してくれたが、その人達が亡くなり、自らが介護を受ける状態になっている。患者自身の就労状況を含め、実態の把握が必要である。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 小長谷正明ら：スモン全国検診の総括、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）））スモンに関する調査研究班・平成27年度総括・分担研究報告書
- 2) 久留 聡ら：全国スモン患者に対する質問紙による調査、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業））スモンに関する調査研究班・平成25年度総括・分担研究報告書 p 99-101, 2014
- 3) 小長谷正明ら：スモン患者の医療・介護・福祉サービスに関するアンケート、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）））スモンに関する調査研究班・平成27年度総括・分担研究報告書

表 スモンに関する調査研究班検診結果集計・経過一覧表（抜粋）

現行の「スモン現状調査個人票」を用いた全国的な検診システムは1988年からである。それ以前のデータは、一部の研究者に限られた範囲で診察した結果を現行の「スモン現状調査個人票」に転記集計したものであり、扱いは注意を要するが、参考として記載した。

表1 検診患者数および薬害救済基金よりの健康管理手当受給者数

検診年度	検診総数	女	男	新規受診者数	健康管理手当受給者数
	人	人	人	人	人
1979	204	142	64		
1980	269	194	75		
1981	364	267	97		
1982	467	342	125		
1983	542	399	143		
1984	606	460	146		
1985	417	308	109		
1986	524	388	136		
1987	580	431	149		
1988	834	642	192		4714
1989	1127	877	250		4603
1990	1205	913	292		4492
1991	1073	270	803		4385
1992	1155	266	889		4266
1993	1107	824	283	134	4138
1994	1120	853	267	110	4012
1995	1084	800	274	71	3849
1996	1042	778	264	65	3705
1997	1141	839	300	87	3556
1998	1040	762	278	53	3424
1999	1149	851	298	88	3308
2000	1073	789	284	58	3182
2001	1036	738	298	51	3057
2002	1035	759	276	33	2936
2003	991	722	269	28	2812
2004	1041	769	272	55	2709
2005	942	680	264	19	2594
2006	912	659	253	15	2499
2007	890	640	250	21	2376
2008	911	666	245	38	2265
2009	867	627	240	34	2176
2010	787	550	237	18	2071
2011	766	545	221	12	1991
2012	730	512	218	17	1855
2013	683	470	213	17	1748
2014	642	457	185	6	1639
2015	660	474	186	11	1529

表2 検診受診者年齢構成

検診年度	検診総数	49歳以下	50-64歳	65-74歳	75-84歳	85歳以上
	人	%	%	%	%	%
1979	204	15.0	46.0	29.0	10.0	0.0
1980	269	16.0	47.0	28.0	9.0	0.0
1981	364	15.0	40.0	33.0	12.0	1.0
1982	467	15.0	45.0	28.0	11.0	1.0
1983	543	13.0	44.0	28.0	13.0	2.0
1984	606	13.0	42.0	29.0	14.0	2.0
1985	417	13.0	36.0	30.0	18.0	2.0
1986	524	11.0	38.0	31.0	18.0	3.0
1987	580	11.0	39.0	29.0	18.0	3.0
1988	834	10.1	40.2	32.0	15.8	1.9
1989	1127	8.1	36.5	34.1	19.1	2.3
1990	1205	5.0	17.0	13.0	9.0	0.0
1991	1073	6.5	35.7	32.9	21.3	3.5
1992	1155	6.2	33.8	33.7	21.6	4.8
1993	1107	5.4	34.6	35.4	24.5*	
1994	1120	5.2	32.6	35.2	27.0*	
1995	1084	3.9	26.3	38.6	31.2*	
1996	1042	3.8	27.0	37.0	32.1*	
1997	1141	3.2	24.1	37.5	28.0	7.2
1998	1040	2.4	22.9	38.2	28.0	8.6
1999	1149	2.3	21.3	38.4	29.2	8.8
2000	1073	1.9	20.0	37.7	30.6	9.9
2001	1036	1.4	18.3	38.0	31.4	10.8
2002	1035	1.1	16.8	38.7	32.4	11.0
2003	991	0.9	16.4	38.7	31.2	12.7
2004	1041	0.7	15.1	36.2	35.0	13.1
2005	942	0.8	12.6	36.8	36.5	13.2
2006	912	0.7	11.1	35.2	37.9	15.1
2007	890	0.3	10.9	31.7	41.6	15.5
2008	911	0.4	9.1	30.8	42.5	17.1
2009	867	0.1	9.2	30.1	42.4	18.1
2010	787	0.3	9.9	28.5	42.6	18.8
2011	766	0.4	8.0	26.2	44.3	21.1
2012	730	0.1	8.1	23.3	45.8	22.7
2013	682	0.3	5.9	23.7	45.4	24.7
2014	642	0.3	4.8	24.6	41.3	29.0
2015	660	0.0	4.1	21.5	43.0	31.4

* 85歳以上を含む

表3 地区別検診受診者数

検診年度	検診総数	北海道	東北	関東・甲越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州
	人	人	人	人	人	人	人	人
1979	204	3	3	66	34	23	23	52
1980	269	2	4	110	66	18	25	44
1981	364	31	5	132	26	67	70	33
1982	467	65	13	179	117	30	28	35
1983	543	119	12	192	35	27	79	58
1984	606	146	56	185	81	33	64	41
1985	417	155	10	26	72	44	58	52
1986	580	158	37	67	81	69	52	60
1987	580	164	29	75	106	36	104	66
1988	834	138	83	173	123	158	110	49
1989	1127	163	84	252	215	173	142	98
1990	1205	161	96	272	174	198	191	113
1991	1073	158	105	270	184	131	150	75
1992	1155	144	108	300	211	137	170	85
1993	1107	143	90	294	187	149	158	83
1994	1120	143	90	310	176	116	185	100
1995	1084	132	100	288	164	143	169	88
1996	1042	110	98	265	175	117	179	99
1997	1141	115	121	250	197	144	216	97
1998	1040	123	109	240	146	134	198	90
1999	1149	118	89	288	165	159	218	112
2000	1073	115	88	212	193	156	216	93
2001	1036	110	88	215	158	167	197	107
2002	1035	110	88	193	164	170	207	103
2003	991	105	86	189	163	163	196	87
2004	1041	102	83	183	150	221	202	100
2005	942	102	82	160	134	177	195	92
2006	912	97	81	140	156	158	192	88
2007	890	94	71	151	143	153	199	81
2008	911	88	68	139	141	145	257	73
2009	867	82	75	145	132	139	221	73
2010	787	75	75	130	119	127	182	79
2011	766	72	71	126	100	147	175	75
2012	730	64	57	125	111	145	163	65
2013	682	63	58	118	117	115	148	64
2014	642	62	58	107	109	108	138	60
2015	660	58	61	103	125	113	136	64

表 4-1 現在の視力

検診 年度	検診 総数	全盲	明暗・手動弁 ・指数弁	新聞 大見出し	新聞小文字・ ほとんど正常
	人	%	%	%	%
1979	186	2.2	4.9	16.7	76.3
1980	182	0.5	4.3	12.1	83.0
1981	260	3.5	5.0	15.4	76.1
1982	437	3.0	5.7	21.7	69.5
1983	330	4.3	6.0	23.1	66.6
1984	342	2.6	7.3	25.7	64.4
1985	371	2.7	10.3	30.5	56.6
1986	459	3.3	8.3	27.7	60.8
1987	512	3.1	6.5	25.4	65.1

1988	797	2.5	7.2	32.4	58.0
1989	1062	2.0	6.6	31.4	60.1
1990	1132	1.6	7.3	29.6	61.5
1991	1039	1.4	7.3	31.8	59.5
1992	1144	1.8	6.6	30.2	61.3
1993	1040	2.1	6.8	29.9	61.2
1994	1086	1.4	6.1	31.3	60.9
1995	1052	1.9	7.0	30.4	60.8
1996	1001	2.4	6.1	31.0	60.4
1997	1092	2.1	6.4	29.5	62.1
1998	1009	2.3	5.5	30.3	61.9
1999	1101	2.0	6.1	31.8	60.0
2000	1017	2.2	6.3	32.6	58.8
2001	1001	1.8	6.8	31.1	60.2
2002	993	1.6	6.2	33.7	58.6
2003	959	1.9	6.4	31.0	60.8
2004	1001	1.6	7.3	33.1	58.0
2005	923	1.6	6.8	32.8	58.7
2006	880	1.7	7.0	31.3	59.9
2007	863	1.5	5.9	29.9	62.7
2008	917	1.5	6.0	33.8	58.8
2009	833	1.7	6.2	31.0	61.1
2010	763	2.1	7.7	31.2	59.0
2011	744	1.3	6.8	33.1	58.7
2012	708	1.6	7.6	30.8	60.0
2013	650	1.4	7.4	31.2	60.1
2014	619	1.5	8.8	30.2	59.7
2015	648	1.4	7.4	33.3	57.9

表 4-2 現在の歩行能力

検診 年度	検診 総数	不能・ 車いす	介助・摺 まり歩行	杖歩行	不安定 歩行	ふつう
	人	%	%	%	%	%
1979	201	7.5	5.5	23.9	45.8	17.4
1980	184	7.0	5.9	22.7	59.0	4.9
1981	286	11.8	7.3	23.1	52.1	4.5
1982	464	10.2	7.8	24.7	49.8	7.5
1983	342	11.7	8.8	24.9	46.9	7.6
1984	590	13.6	7.5	23.4	51.0	4.6
1985	398	14.6	11.3	47.0	46.2	5.0
1986	500	14.6	9.0	23.2	46.0	7.2
1987	548	14.6	9.0	20.6	50.9	4.9

1988	828	11.2	9.2	22.1	48.4	9.1
1989	1119	10.3	10.7	22.3	48.1	8.6
1990	1187	12.0	11.4	26.8	51.5	9.2
1991	1071	9.9	10.1	20.4	42.4	8.1
1992	1154	10.2	9.6	24.2	48.4	7.5
1993	1074	10.3	8.6	24.5	48.0	8.5
1994	1001	11.4	11.6	23.0	47.1	9.0
1995	1061	12.5	8.6	3.2	46.5	9.1
1996	1011	11.2	9.9	22.4	47.6	9.0
1997	1106	10.1	10.3	22.5	47.2	9.9
1998	1026	13.2	14.1	23.2	44.7	10.0
1999	1113	10.4	10.9	23.6	46.1	8.8
2000	1024	12.4	9.9	23.2	46.0	8.6
2001	1006	11.9	10.6	24.2	44.1	9.0
2002	993	12.7	12.9	24.7	41.0	10.1
2003	961	13.1	12.3	24.4	40.2	9.9
2004	1021	13.1	12.1	26.0	38.6	10.2
2005	930	16.7	13.9	25.2	36.4	11.0
2006	888	14.6	14.3	25.1	36.0	9.9
2007	871	16.5	14.1	23.7	34.8	10.4
2008	831	15.3	15.4	23.9	34.4	11.0
2009	844	17.9	15.9	25.8	30.9	9.6
2010	774	17.3	15.0	24.6	31.0	10.1
2011	757	17.2	14.4	24.7	35.4	8.3
2012	721	19.0	14.1	23.5	34.4	8.9
2013	665	17.3	14.2	24.1	35.3	8.3
2014	635	18.5	16.4	23.3	34.4	7.1
2015	655	20.2	17.0	24.0	30.9	8.1

表 4-3 下肢筋力低下

検診年度	検診総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	7	14.3		57.1	28.6
1980	7	14.3	14.3	57.1	14.3
1981	28	21.4	21.4	39.3	17.9
1982	382	12.0	25.1	42.9	19.9
1983	247	11.4	27.6	43.1	17.9
1984	247	12.1	29.6	36.4	21.9
1985	158	12.0	22.8	40.5	24.7
1986	239	14.6	32.2	36.4	16.7
1987	184	8.7	23.9	44.0	23.4

1988	819	12.0	27.4	46.5	14.4
1989	1101	10.3	29.7	43.3	16.7
1990	1183	10.9	27.2	42.7	19.2
1991	1053	10.1	30.3	42.0	17.7
1992	1152	10.0	26.1	46.7	17.2
1993	1074	10.6	29.3	42.8	17.4
1994	1103	10.4	28.8	43.6	17.3
1995	1061	11.5	29.4	42.0	17.1
1996	1014	10.3	29.6	45.0	15.2
1997	1110	10.5	26.6	44.2	18.6
1998	1020	10.4	26.8	43.1	19.6
1999	1114	9.8	30.1	43.4	16.7
2000	1019	12.3	28.6	41.6	17.4
2001	1007	11.9	31.3	38.6	18.3
2002	1002	14.4	28.2	38.3	19.2
2003	963	13.4	27.6	40.8	18.2
2004	974	14.1	27.5	40.6	17.9
2005	928	14.4	28.0	37.2	20.4
2006	873	13.5	29.7	35.4	21.4
2007	868	16.1	28.6	36.1	19.2
2008	828	14.9	29.3	34.5	21.3
2009	837	16.0	27.4	36.3	20.3
2010	768	15.5	27.2	34.8	22.5
2011	737	17.6	26.3	34.9	21.2
2012	713	17.8	27.1	35.6	19.5
2013	658	18.7	25.3	37.2	18.8
2014	625	18.9	25.6	35.2	20.3
2015	647	19.0	27.0	35.5	18.4

表 4-4 下肢痙縮

検診年度	検診総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	182	7.7	14.3	34.1	44.0
1980	133	9.0	23.3	33.8	33.9
1981	192	6.8	27.1	28.6	37.5
1982	102	6.9	11.8	29.4	52.0
1983	177	7.4	21.0	22.2	49.4
1984	211	7.6	24.2	30.3	37.9
1985	153	5.9	13.7	19.0	61.4
1986	236	8.1	16.9	29.2	45.8
1987	180	7.2	11.7	31.1	50.0

1988	814	9.0	21.5	32.1	37.5
1989	1090	8.3	22.1	31.9	37.7
1990	1171	7.7	19.0	32.7	40.6
1991	1049	3.3	12.3	38.2	47.1
1992	1154	7.4	21.8	33.5	37.1
1993	1072	9.0	21.3	30.4	39.5
1994	1100	7.2	20.7	33.1	39.1
1995	1061	8.2	20.0	31.1	40.8
1996	1015	7.1	21.7	33.1	38.1
1997	1108	7.3	20.1	33.3	39.2
1998	1017	7.4	21.1	31.3	40.3
1999	1114	7.5	22.5	32.2	37.7
2000	1016	7.9	19.9	29.3	42.9
2001	1006	7.8	17.5	30.3	44.4
2002	1003	8.6	18.4	27.3	45.8
2003	962	8.4	17.4	28.4	46.0
2004	972	7.7	17.2	26.3	48.8
2005	926	8.0	17.4	27.0	47.6
2006	873	7.4	18.8	26.6	47.2
2007	862	8.8	17.7	27.6	45.8
2008	926	8.0	18.3	28.2	45.6
2009	831	8.4	17.3	28.6	45.6
2010	766	7.6	14.5	33.6	44.4
2011	732	7.4	17.5	32.1	43.0
2012	712	7.4	16.2	31.5	44.9
2013	656	8.5	17.5	30.0	44.0
2014	627	7.0	18.5	33.3	41.1
2015	646	8.7	19.0	29.6	42.7

表 4-5 触覚

検診 年度	検診 総数	高度	中等度	軽度	過敏	なし
	人	%	%	%	%	%
1979	199	27.6	43.2	25.1	1.5	2.5
1980	147	19.7	60.5	10.9	5.4	3.4
1981	228	22.8	54.4	17.1	3.1	2.6
1982	436	15.3	66.2	14.1	3.3	1.2
1983	243	19.0	62.4	14.9	2.9	0.8
1984	239	14.2	68.6	16.3	0.8	0.0
1985	138	13.0	67.4	18.8	0.7	0.0
1986	214	16.8	63.1	16.8	2.3	0.9
1987	163	9.8	70.6	16.0	2.5	1.2

1988	823	13.0	52.9	23.9	6.8	3.4
1989	1095	11.5	50.0	28.2	7.0	3.7
1990	1165	11.7	47.7	28.6	7.5	4.5
1991	1056	12.3	52.7	24.0	6.9	3.2
1992	1153	12.0	50.0	26.6	8.1	3.0
1993	1074	10.9	50.4	26.9	9.8	2.1
1994	1100	10.8	49.2	29.4	8.0	2.5
1995	1056	10.6	52.9	25.7	7.3	3.6
1996	1008	11.1	50.4	27.4	8.1	3.2
1997	1102	9.9	48.1	30.5	7.7	3.7
1998	1014	11.3	48.6	29.8	7.7	2.6
1999	1108	11.9	46.8	31.2	6.7	3.3
2000	1013	9.9	42.3	35.0	8.4	4.6
2001	998	10.7	41.1	35.6	8.4	4.3
2002	1001	11.3	42.0	33.0	9.3	4.4
2003	954	11.0	40.7	33.5	10.3	4.5
2004	971	9.7	42.8	34.4	8.9	4.2
2005	922	8.9	45.4	32.1	9.4	4.1
2006	876	9.3	44.6	32.5	9.4	4.1
2007	852	9.5	43.2	33.7	9.3	4.3
2008	818	10.0	45.4	35.0	8.2	3.9
2009	826	10.4	44.2	32.9	9.4	3.0
2010	757	10.0	38.7	37.3	10.3	3.7
2011	729	9.7	39.5	33.7	12.8	4.3
2012	696	9.9	40.8	32.0	11.8	5.5
2013	647	9.4	40.4	33.2	11.6	5.4
2014	605	10.1	39.2	32.1	12.1	6.6
2015	623	9.1	40.9	33.1	11.1	5.8

表 4-6 痛覚

検診 年度	検診 総数	高度	中等度	軽度	過敏	なし
	人	%	%	%	%	%
1979	197	21.3	46.2	25.9	4.1	2.5
1980	147	12.9	55.8	10.9	17.0	3.4
1981	213	25.0	42.1	19.4	9.3	4.2
1982	135	17.8	33.3	14.8	29.6	4.4
1983	34	12.1	48.5	12.1	21.2	6.1
1984	10	20.0	60.0	20.0		
1985	10	30.0	40.0		30.0	
1986	12		33.3	25.0	25.0	16.7
1987	21	9.5	66.7	4.8	14.3	4.8

1988	818	10.8	43.2	24.4	18.3	3.3
1989	1086	8.5	43.6	24.6	19.7	3.7
1990	1165	9.2	40.6	25.1	20.7	4.5
1991	1053	10.3	45.1	22.3	19.0	3.3
1992	1148	9.7	42.9	24.4	19.6	3.5
1993	1069	9.8	41.1	23.7	22.8	2.7
1994	1098	9.9	42.9	26.6	18.1	2.7
1995	1053	10.1	44.9	24.2	17.8	3.1
1996	1005	10.5	43.2	25.9	17.9	2.7
1997	1101	9.3	40.9	25.0	21.9	3.8
1998	1016	11.0	41.2	25.3	20.3	2.3
1999	1107	11.5	41.1	26.5	18.1	2.9
2000	1013	10.4	35.6	29.5	21.7	2.9
2001	997	11.1	34.4	30.5	19.8	4.3
2002	999	12.0	35.0	27.6	21.7	3.6
2003	956	11.0	34.8	27.9	22.2	4.1
2004	971	9.8	36.0	29.1	20.9	4.1
2005	904	8.5	37.7	26.7	23.3	3.8
2006	880	9.4	37.4	27.8	21.0	3.8
2007	855	9.1	36.4	28.0	22.2	4.3
2008	816	10.0	38.4	26.3	21.3	3.9
2009	828	10.7	34.8	27.8	22.9	3.7
2010	757	9.2	33.3	28.8	23.5	5.2
2011	729	9.1	33.1	26.9	25.7	5.3
2012	698	9.9	33.1	26.6	24.2	6.2
2013	645	9.4	35.1	25.2	24.5	5.7
2014	606	9.6	34.2	24.8	24.3	7.3
2015	623	9.5	34.8	25.8	24.6	5.3

表 4-7 振動覚

検診年度	検診総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	198	40.9	36.9	21.2	1.0
1980	146	35.6	47.3	14.4	2.7
1981	231	35.9	43.3	16.0	4.8
1982	447	32.0	48.5	16.3	3.1
1983	261	28.1	46.5	18.5	6.9
1984	245	21.2	58.0	15.9	4.9
1985	152	23.0	35.5	32.2	9.2
1986	226	26.1	43.4	22.6	8.0
1987	170	21.8	47.6	21.8	8.8

1988	817	33.5	41.7	18.5	6.2
1989	1050	32.6	42.0	18.8	6.7
1990	1141	33.0	38.6	20.4	8.0
1991	1019	26.0	57.2	17.3	1.9
1992	1143	31.8	41.6	22.0	4.5
1993	1046	31.2	41.7	22.2	4.8
1994	1084	33.3	38.1	24.5	4.1
1995	1053	33.7	40.2	22.1	4.1
1996	1006	35.1	42.0	18.8	4.1
1997	1093	33.9	37.4	24.0	4.7
1998	1011	33.6	39.2	22.6	4.5
1999	1099	32.8	37.6	24.9	4.6
2000	1007	34.3	36.4	25.1	4.3
2001	993	33.9	34.6	27.5	4.2
2002	988	36.0	34.6	25.2	4.2
2003	947	35.7	34.8	24.6	4.9
2004	962	35.8	35.8	24.5	4.0
2005	907	35.9	35.8	23.8	4.7
2006	873	35.0	34.1	26.4	4.5
2007	853	36.6	34.5	25.3	3.6
2008	808	35.6	34.9	26.2	3.2
2009	820	34.8	35.9	25.1	4.3
2010	757	32.8	36.7	26.3	4.2
2011	729	32.6	37.7	26.3	3.3
2012	691	36.2	35.9	24.2	3.8
2013	643	38.2	35.1	22.5	4.2
2014	605	36.5	34.9	24.5	4.1
2015	623	38.4	36.9	21.2	3.5

表 4-8 異常知覚

検診年度	検診総数	高度	中等度	軽度	なし
	人	%	%	%	%
1979	191	38.7	11.5	45.5	4.2
1980	258	31.8	58.1	10.1	0.0
1981	222	24.3	65.3	8.1	2.3
1982	282	26.6	68.1	5.0	0.4
1983	209	35.1	59.1	4.8	1.0
1984	218	47.7	47.7	3.7	0.9
1985	148	50.0	44.6	4.7	0.7
1986	230	47.0	50.4	2.6	0.0
1987	166	47.0	50.0	2.4	0.6

1988	814	15.2	41.9	18.6	6.3
1989	1077	23.8	57.3	16.7	2.2
1990	1133	13.9	32.7	32.2	21.2
1991	1043	25.4	55.9	16.9	1.8
1992	1136	25.5	57.2	15.9	4.6
1993	1059	22.4	60.4	16.3	1.5
1994	1098	21.5	59.0	17.4	2.1
1995	1054	23.4	56.4	18.7	1.6
1996	1003	22.9	58.2	17.7	1.2
1997	1093	22.1	58.6	16.8	2.5
1998	1010	24.9	56.6	16.9	1.4
1999	1107	22.9	58.6	16.2	2.4
2000	1001	21.5	58.6	16.4	3.4
2001	989	24.5	57.4	15.2	2.9
2002	994	23.3	58.9	15.5	2.3
2003	953	23.2	60.0	14.7	2.1
2004	964	20.0	59.5	17.6	2.8
2005	918	20.0	59.2	18.2	2.6
2006	978	20.0	57.2	19.2	3.5
2007	854	20.5	57.0	18.7	3.7
2008	818	21.0	56.1	18.7	4.2
2009	830	20.5	54.9	20.9	4.0
2010	760	20.4	51.7	23.4	4.5
2011	730	22.5	53.3	20.5	3.7
2012	699	20.7	55.4	19.6	4.3
2013	646	19.8	54.7	21.2	4.3
2014	619	19.2	53.3	22.5	5.0
2015	623	21.2	52.4	21.3	5.1

表5 身体的併発症

検診 年度	検診 総数	あり	白内障	高血圧	CVD	心疾患	肝胆	他消 化器	DM	呼吸器	骨折	脊椎	四肢 関節	腎泌 尿器	パー キン	dyski- nesia	姿勢 振戦	悪性 腫瘍	その他
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1979	102	95.1	22.5	24.5	2.0	5.9	7.8	10.8	1.0	11.8	2.0	11.8	3.9	5.9	1.0	0.0	2.0	2.9	23.5
1980	199	67.8	22.6	23.6	2.0	5.0	5.5	8.5	5.0	8.0	2.0	6.0	1.5	3.5	0.0	0.0	0.0	2.5	11.1
1981	326	69.9	19.9	24.8	2.1	4.6	3.4	5.2	3.1	4.0	3.1	8.6	8.6	4.6	0.3	1.2	0.9	2.1	16.6
1982	438	71.2	20.1	26.5	2.7	7.5	3.7	4.8	2.1	4.1	3.7	13.0	13.0	4.1	2.1	2.0	1.8	1.6	14.2
1983	183	94.0	32.4	25.8	3.8	4.9	2.7	9.9	1.1	6.0	4.9	8.2	10.4	3.8	1.6	0.5	0.0	3.3	22.5
1984	287	98.6	21.6	24.7	3.1	12.2	7.0	18.1	3.1	8.4	2.8	7.7	7.3	8.0	1.7	0.3	0.3	2.8	24.7
1985	361	90.6	37.4	34.9	5.8	17.2	10.2	11.9	6.6	5.5	11.1	8.3	8.0	5.5	2.2	1.9	2.2	2.8	19.9
1986	446	92.4	39.0	41.7	5.2	15.0	9.6	14.1	6.3	4.0	7.8	9.2	10.1	6.3	1.8	1.8	3.6	1.8	22.2
1987	498	94.2	39.4	39.6	6.4	18.1	10.0	14.9	6.8	5.4	8.6	11.2	9.0	9.1	2.0	1.6	3.0	1.8	20.9
1988	834	88.8	30.5	32.5	5.3	21.3	12.1	21.3	6.8	7.2	9.7	19.7	12.7	10.7	1.2	1.0	4.1	2.4	
1989	1127	87.3	28.5	33.8	4.7	18.9	11.9	19.3	5.8	6.4	7.3	19.8	13.7	10.6	1.5	1.0	3.9	1.4	
1990	1205	88.1	29.7	33.6	4.8	18.2	10.9	20.2	5.8	5.8	7.1	15.8	13.3	9.4	1.6	1.1	2.4	1.7	
1991	1073	84.5	29.3	35.4	5.5	18.6	13.1	18.3	4.7	6.8	9.2	18.8	15.8	9.6	1.9	0.7	1.8	2.3	
1992	1155	89.7	31.9	34.5	6.5	19.1	12.8	20.4	6.7	7.1	15.7	22.8	18.4	10.8	1.6	0.7	2.9	3.7	27.8
1993	1107	89.2	32.6	31.4	6.5	12.7	12.9	22.1	5.5	7.8	11.2	22.2	17.9	9.5	1.3	0.6	2.3	2.2	30.4
1994	1120	91.2	41.5	28.9	7.4	18.4	12.6	24.6	6.4	6.6	12.7	23.8	18.7	11.3	1.2	0.4	1.6	2.3	34.3
1995	1084	92.0	46.3	33.6	7.6	18.9	13.4	24.2	7.1	7.5	13.7	26.4	21.1	12.0	1.4	0.4	1.3	2.6	35.1
1996	1042	89.8	43.8	34.1	8.5	17.5	13.5	23.3	6.8	7.9	12.4	25.1	19.8	11.1	1.5	0.6	1.4	2.3	35.1
1997	1141	91.8	43.7	32.9	8.2	18.8	1.6	24.5	7.2	7.8	12.3	29.2	20.7	13.0	1.4	0.8	1.8	3.2	36.7
1998	1040	91.9	47.7	34.1	8.0	18.8	14.7	23.6	9.0	7.8	12.3	33.0	23.7	13.7	1.1	0.5	1.8	3.5	23.3
1999	1149	89.7	49.8	35.2	9.3	18.6	14.4	22.5	8.2	7.6	12.1	30.5	22.5	12.9	1.2	0.6	1.8	3.9	37.0
2000	1073	90.6	51.3	34.5	10.1	18.4	14.5	24.7	9.1	8.7	12.6	31.1	26.7	14.3	1.2	0.8	1.8	3.9	37.9
2001	1036	94.2	53.2	36.4	10.9	21.4	15.9	25.0	10.2	9.9	15.3	35.7	28.8	15.6	1.3	0.8	2.2	4.9	39.5
2002	1035	93.0	56.2	40.2	11.0	22.8	15.0	27.6	11.2	10.0	14.9	35.5	31.5	17.3	1.1	0.4	2.6	5.3	45.7
2003	991	94.4	56.5	41.7	9.6	22.8	14.7	25.2	11.0	9.9	14.2	33.1	31.4	17.3	1.3	0.6	3.2	6.1	47.7
2004	1041	96.7	56.9	42.4	11.3	23.5	13.6	25.6	10.1	9.9	17.4	35.4	31.8	17.0	1.3	1.1	2.8	6.6	47.0
2005	942	96.9	60.8	44.7	11.6	23.0	15.7	26.8	11.7	10.4	14.6	36.8	34.5	20.4	2.0	1.1	2.5	6.5	52.9
2006	912	95.4	58.8	44.8	11.2	24.9	14.3	26.6	11.1	9.6	16.6	37.8	29.1	18.9	2.1	0.5	3.0	6.3	51.5
2007	890	96.5	63.6	45.6	11.5	24.8	15.0	29.7	11.5	9.2	18.6	38.6	34.6	17.7	2.5	1.0	2.3	7.8	52.2
2008	911	98.6	60.3	49.3	12.6	25.0	14.2	26.4	11.9	9.6	17.8	38.7	32.5	19.1	2.5	1.2	3.7	7.4	51.2
2009	867	97.5	59.7	50.1	12.8	22.7	14.4	27.6	11.9	10.5	17.6	38.7	33.1	19.1	2.7	0.9	3.3	7.1	51.4
2010	787	97.7	60.0	51.2	12.7	23.3	12.8	26.8	13.2	10.9	16.6	38.0	33.9	20.9	3.0	0.6	2.7	8.2	51.3
2011	759	98.6	63.8	53.1	11.6	23.2	14.0	26.2	12.5	11.7	17.1	39.8	35.2	20.0	2.6	1.4	3.3	9.4	54.2
2012	722	98.6	62.7	52.6	11.9	24.1	12.6	26.2	14.3	12.9	19.3	40.4	35.5	19.3	2.4	1.4	3.7	9.4	51.7
2013	667	99.0	60.3	54.5	10.8	24.7	13.6	28.6	16.0	11.8	19.0	41.9	35.3	18.9	2.8	0.6	3.7	9.7	50.0
2014	634	98.1	61.0	56.6	12.0	22.4	12.5	26.7	14.5	11.0	17.5	40.5	36.0	18.9	2.7	0.8	3.3	9.6	51.6
2015	653	99.2	64.8	56.4	13.5	23.3	13.3	29.7	13.5	12.4	21.3	41.7	37.4	19.3	2.8	0.3	3.4	9.6	51.9

表6 精神症状

検診年度	検診総数	あり	ノイローゼ	不安、焦燥	心氣的	抑うつ	記憶力低下	認知症	その他
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
1979	5			20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1980	5			20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
1981	29	79.3		13.8	24.1	6.9	0.0	10.3	13.7
1982	237	24.9		12.7	11.8	3.4		1.3	1.3
1983	509	82.9		75.8	42.9	46.3		12.8	0.4
1984	591	81.6		75.1	44.8	46.2		13.2	0.8
1985	391	68.5		58.6	29.1	46.3		6.4	1.0
1986	498	69.7		58.6	38.0	40.4		7.8	0.8
1987	542	69.0		54.2	42.0	36.9		6.5	0.6
1988	834		4.3			5.4		1.0	1.3
1989	1127		4.4			3.9		1.3	1.2
1990	1205		3.3			3.6		1.2	1.7
1991	1073			17.1	11.3	11.0	10.7	1.9	2.1
1992	1155	36.7		18.3	10.4	13.0	12.3	1.9	2.0
1993	1107	36.1		18.7	10.7	13.3	13.8	1.1	2.3
1994	1120	41.2		22.2	13.1	14.8	17.9	2.4	2.5
1995	1084	41.5		23.2	12.8	15.3	16.2	2.3	2.3
1996	1042	41.7		23.9	14.6	15.7	12.8	3.1	2.7
1997	1141	42.9		23.0	14.8	15.2	14.8	3.1	2.0
1998	1040	42.4		23.3	13.1	14.8	16.3	3.4	2.5
1999	1149	41.7		24.0	13.7	15.7	15.7	3.1	2.9
2000	1073	45.5		25.5	14.7	18.0	21.0	3.5	2.6
2001	1036	47.3		26.7	14.4	16.7	21.5	3.5	2.6
2002	1035	51.8		27.8	13.6	19.8	24.8	4.3	3.6
2003	991	52.0		28.7	13.4	20.2	24.4	4.0	3.3
2004	1041	54.9		29.7	13.5	20.8	27.0	4.9	4.9
2005	942	54.6		28.8	14.4	22.0	29.6	5.1	5.4
2006	912	52.3		28.2	12.7	19.6	29.4	6.2	4.8
2007	890	51.6		29.2	14.0	20.7	28.7	6.4	3.7
2008	911	54.3		29.4	16.3	20.5	28.9	7.0	4.8
2009	867	54.1		27.7	13.5	20.6	28.3	6.6	4.9
2010	787	55.8		30.1	14.4	22.7	29.4	7.3	2.7
2011	750	58.9		32.9	14.1	22.7	32.4	6.7	3.9
2012	716	55.7		29.9	13.7	20.3	30.6	8.0	3.6
2013	663	55.4		27.3	12.3	19.9	33.7	9.6	3.2
2014	628	54.9		29.5	13.7	18.3	31.2	12.7	3.0
2015	649	59.5		29.1	12.9	17.6	33.3	14.2	5.1

表 7-1 診察時の障害度

検診年度	検診総数	極重度	重度	中等度	軽度	極軽度
	人	%	%	%	%	%
1979	2	50.0	50.0			
1980	1	100.0				
1981	16	25.0	1.8	18.8	37.5	0.0
1982	360	0.3	19.2	53.9	26.4	0.3
1983	490	3.7	16.4	46.0	31.3	2.7
1984	566	3.7	19.3	45.8	29.0	2.3
1985	387	5.8	21.5	42.3	26.5	3.9
1986	497	5.4	21.7	42.1	26.6	4.2
1987	550	6.5	19.3	46.4	24.5	3.3
1988	824	3.7	17.7	43.5	30.3	3.5
1989	1114	2.4	18.3	46.1	27.2	4.8
1990	1131	3.6	17.5	40.9	28.2	3.7
1991	1059	3.8	20.7	45.1	26.0	3.1
1992	1150	3.5	17.5	50.0	26.8	1.8
1993	1045	4.0	19.3	46.1	28.2	2.4
1994	1087	3.9	18.2	46.4	28.0	3.3
1995	1034	5.1	17.0	47.8	27.1	2.9
1996	999	3.8	18.7	47.0	27.3	3.1
1997	1080	4.0	18.4	46.8	27.8	3.0
1998	990	5.0	18.8	46.6	26.8	2.7
1999	1098	5.0	19.4	46.0	26.9	2.8
2000	1003	4.8	18.6	46.2	26.4	4.0
2001	997	4.2	18.8	45.6	27.7	3.7
2002	1006	4.6	20.3	44.2	25.5	5.2
2003	959	4.8	21.5	43.7	25.5	4.4
2004	1010	5.0	19.8	45.1	25.6	4.4
2005	925	5.3	20.3	42.6	27.6	4.2
2006	880	5.2	20.7	43.7	26.7	4.9
2007	866	4.6	22.6	42.5	25.4	4.8
2008	829	4.7	22.4	42.5	26.2	4.2
2009	841	5.1	24.0	41.7	25.6	3.6
2010	768	5.1	25.4	39.5	26.0	4.0
2011	755	5.6	22.6	42.5	25.4	3.8
2012	716	4.9	23.0	42.9	29.1	4.1
2013	666	5.2	21.3	44.5	24.7	4.2
2014	627	6.1	21.2	44.3	25.2	3.2
2015	626	5.6	22.6	43.7	25.7	2.5

表 7-2 診察時の障害要因

検診年度	検診総数	スモン	スモン+併発症	併発症	スモン+加齢
	人	%	%	%	%
1979	0				
1980	1				100.0
1981	9	44.4	44.4	0.0	11.1
1982	301	74.8	9.0	0.3	15.9
1983	151	72.7	13.3	0.7	13.3
1984	170	61.6	19.4	1.2	17.6
1985	112	57.1	31.3	0.0	11.6
1986	171	64.9	21.6	0.6	12.6
1987	129	54.3	25.6	3.1	17.1
1988	796	56.5	28.9	1.7	8.4
1989	1096	66.0	24.2	1.0	8.9
1990	1100	56.5	32.3	3.2	3.5
1991	390	43.1	33.6	11.0	12.3
1992	394	44.9	34.5	9.4	11.2
1993	1056	52.3	36.4	1.6	9.7
1994	1081	49.7	39.9	2.1	8.3
1995	1038	45.8	44.8	1.4	8.0
1996	989	47.3	43.8	1.2	7.8
1997	1073	44.9	46.8	1.1	7.2
1998	989	45.8	46.2	1.2	6.8
1999	1093	44.2	48.8	0.7	6.3
2000	1009	39.8	51.6	0.6	8.1
2001	1000	35.6	54.9	0.7	8.8
2002	1006	37.3	54.2	1.1	7.4
2003	956	35.1	55.4	1.8	7.7
2004	1015	34.3	54.8	1.6	9.4
2005	928	33.5	57.3	1.5	7.7
2006	882	35.3	54.2	2.4	8.2
2007	866	31.8	58.0	2.0	8.3
2008	825	29.8	60.2	1.8	8.1
2009	840	32.3	59.6	1.8	6.3
2010	769	29.6	61.2	1.8	7.3
2011	756	24.9	64.6	2.8	7.8
2012	710	22.8	67.0	2.0	8.2
2013	665	21.6	67.1	3.5	7.8
2014	622	20.6	68.0	2.7	8.7
2015	647	20.2	67.9	3.4	8.5

表 8 最近 5 年間の療養状況

検診 年度	検診 総数	在宅	ときどき 入院	長期入院 または入所
	人	%	%	%
1979	203	93.6	0.5	5.9
1980	267	93.6	1.5	4.5
1981	362	85.4	3.3	11.3
1982	461	84.8	4.1	11.1
1983	541	84.3	3.9	11.9
1984	601	83.5	5.7	10.8
1985	416	79.8	7.7	12.5
1986	510	74.5	15.3	10.2
1987	578	75.4	16.3	8.3
1988	824	74.0	20.6	5.3
1989	1109	78.0	17.0	4.9
1990	1173	78.1	16.7	5.2
1991	1064	74.5	20.5	5.0
1992	1150	76.3	19.4	4.3
1993	1030	77.8	17.6	4.5
1994	1082	76.0	18.8	5.2
1995	1044	75.0	18.8	6.2
1996	1005	76.7	18.5	5.0
1997	1113	77.1	17.5	5.4
1998	1027	74.6	18.7	6.7
1999	1113	77.1	18.9	4.0
2000	1033	76.3	18.3	5.3
2001	1028	75.6	17.9	6.6
2002	1008	74.5	19.1	6.5
2003	962	75.6	18.2	6.2
2004	1023	75.4	17.6	7.0
2005	930	78.8	14.7	6.5
2006	891	77.7	15.6	6.7
2007	872	76.5	15.5	8.0
2008	889	75.0	16.0	9.0
2009	850	75.5	17.2	7.3
2010	773	71.8	19.4	8.8
2011	764	71.6	20.0	8.4
2012	722	70.6	19.8	9.6
2013	670	73.8	16.7	9.5
2014	641	74.3	14.0	11.7
2015	657	68.9	19.3	11.7

表 9 Barthel Index 得点分布

検診 年度	検診 総数	20点 以下	25-40点	45-55点	60-75点	80-90点	95点	100点
	人	%	%	%	%	%	%	%
1991	1073	1.9	3.3	2.4	10.6	26.3	22.1	33.5
1992	1155	1.7	2.4	2.8	10.0	32.7	19.8	30.4
1993	1107	3.3	3.3	2.4	9.1	27.5	18.2	36.2
1994	1120	3.0	3.2	3.1	9.6	32.1	18.9	30.1
1995	1084	3.2	3.5	2.6	10.8	31.7	19.6	28.6
1996	1042	2.7	2.6	2.9	11.7	29.0	20.9	30.2
1997	1141	3.2	2.6	2.9	10.9	28.7	23.7	28.0
1998	1040	4.1	3.1	3.2	11.3	28.0	15.6	34.8
1999	1149	3.1	3.0	3.4	12.4	28.7	22.0	27.3
2000	1073	3.8	3.6	4.4	11.8	29.1	20.1	27.1
2001	1036	4.2	4.5	3.5	12.9	30.9	19.9	24.1
2002	1035	4.6	3.4	4.2	14.8	30.1	19.3	23.6
2003	991	4.7	3.6	3.9	14.4	30.0	21.1	22.1
2004	1041	4.4	3.7	4.8	15.6	31.2	19.6	20.7
2005	942	4.6	4.1	6.1	14.5	30.5	17.8	22.4
2006	912	5.7	3.4	6.6	14.6	30.2	18.8	21.5
2007	890	5.5	4.2	6.8	15.0	30.0	17.3	21.2
2008	911	5.0	5.0	6.3	16.2	27.4	17.4	22.8
2009	867	5.6	5.5	7.2	15.8	28.4	17.8	19.8
2010	787	6.4	3.8	7.4	16.3	28.4	16.8	21.0
2011	764	7.6	2.9	6.3	14.8	28.9	17.3	22.3
2012	727	7.0	3.7	5.8	17.6	26.7	17.5	21.7
2013	682	7.3	4.4	5.4	17.9	27.1	18.0	19.9
2014	642	7.8	4.8	7.8	16.7	25.1	17.8	20.1
2015	660	9.1	5.8	6.4	16.2	25.8	16.2	18.6